

平成24年度 自己評価計画に対する中間評価結果

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 学習指導と進路指導の充実を図る。 個に応じた指導による基礎・基本の定着 確かな学力の増進 普通・芸術・外国語の各コースの特性を活かした進路指導の充実	①	教務課 各教科	年間を通して校内公開授業とし、授業研究を充実させて授業改善を促進する。 また、年2回全教科共通のテーマで研究協議会を持ち、協議内容を全職員で共有する。	【努力指標】 年間を通して、積極的に授業参観を行う。また、各教科で研究授業や研究協議会等を実施し、授業改善へ向けた具体的な取組について検討する。なお、研究協議会等の成果や課題は全職員で共有する。	他の教員の授業を参観した回数が年間 A 7回以上である B 5回以上である C 3回以上である D 2回以下である	A+Bの割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	年度末に集計するが、9月時点ではB以上が22.7%であった。
	②	教務課 各学年 各教科	家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。 また、課題提出を評価に加え、学習時間の増加を図っているが、生徒個々の家庭学習時間は少ない。	【成果指標】 各教科で計画的に週末課題を含む課題を効果的に与え、その提出を徹底させて、家庭学習習慣を確立させる。	課題の提出率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の生徒アンケートでは、68.7%あった。
	③	進路指導課 各学年	キャリア教育の充実とともに目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう教育活動を行う。	【満足度指標】 目標を持って有意義な高校生活を送り、本校に入学したことに満足感を持っている。	本校に入学して良かったと思う生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の生徒アンケートでは、67.5%であった。
	④	進路指導課 各学年 各教科	個人面談等を効果的に活用し、進路目標の明確な設定を図る。	【満足度指標】 明確な進路目標をもち、その目標の達成にどのような学習活動が必要か理解している。	具体的な進路目標を持っている生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の生徒アンケートでは、69.0%であった。
	⑤	進路指導課 各学年 国語科 小論文委員会	視野を広げるとともに、考える力や表現力を伸ばすため、3年間を見通した小論文指導を行う。	【努力指標】 小論文委員会の計画に基づき、研修・実践を定期的に行い、各教員の指導力の向上に努める。	小論文指導に積極的に参加することができたと答える教員の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に実施する教職員アンケートにて集計する。
2 基本的な生活習慣や倫理観を確立し、豊かな人間性や社会性を育成する。	①	生徒指導課 各学年	家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導を全職員で行う。	【成果指標】 服装や頭髪などの身だしなみが人の「心を表す」ものであるという自覚を持ち、服装容儀に関する生徒心得を遵守している。	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の生徒アンケートでは、88.1%であった。
	②	生徒指導課 各学年	全教職員で協力し、遅刻の減少を目指す。	【成果指標】 遅刻者数が前年度(1232件)から半減することを目指す。	年間の遅刻者の延べ人数が A 600人以下である B 850人以下である C 1000人未満である D 1000人以上である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に調査する。なお、7月末現在で217件(昨年は469件)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
遅刻や欠席の減少 きちんとした言葉遣いや挨拶などの礼儀指導、 端正な服装容儀、 規範意識の高揚、 ボランティア精神や環境保護の精神の涵養	③ 人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	相談室 各学年 各教科	過去2年間、文科省指定の「道徳教育」の実践研究を行ってきたので、その成果として効果のあった取り組みを継続的に実践し、生徒に人間としての在り方・生き方を考えさせていきたい。	【満足度指標】 構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、人間関係づくりに役立ったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、人間関係づくりに役立ったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の生徒アンケートでは、67.1%であった。
	④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒会 各学年	年間3回の近隣地域でのボランティア清掃を実施している。地域に根ざした奉仕活動のあり方を考え、今後も継続・実践していきたい。	【努力指標】 年間を通して近隣地域でのボランティア活動に積極的に取り組み、奉仕活動の意義を理解する。	近隣地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に集計するが、7月実施の生徒アンケートでは、34.4%であった。
	⑤ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO ₂ 排出の削減等を目指すとともに、環境保護の精神を培う。	保健 環境課	「学校版環境ISO」に基づき、本校の具体的数値目標の達成に向けて、エコ活動を充実させる必要がある。	【成果指標】 生徒・職員全体がエコ活動に積極的に取り組む。	エコ活動に積極的に取り組んだと答える生徒・教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の生徒アンケートでは、70%教職員アンケートでは95%、総合で73%であった。
3 時代を生きぬく、積極的で活力のある人間の育成を図る。 部活動の活性化 生徒会活動の活性化 健やかでたくましい心と体の育成	① 1年生には全学部活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	生徒会 各学年	部活動の加入率は89%と高いが、実際に活動している生徒の割合が低い。	【努力指標】 部活動の加入者をさらに増やすとともに、実際に活動している生徒の割合を増やす。	部活動に加入している生徒で、実際に活動している生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の生徒アンケートでは、88.3%であった。
	② 体力測定記録の更新を意識づけ、全学年を通じた体力の向上を目指す。	体育科	2年女子の体力がやや低いが、体力向上に取り組む意欲は高い。各種行事を通して、自己記録が更新できるよう指導を継続する必要がある。	【成果指標】 ランニングロード(1周130m)における、男子20周の平均タイムが12分30秒に、女子10周の平均タイムが7分45秒になることを目指す。	男子で12分30秒以内、女子で7分45秒以内の記録を達成した生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	2月に調査する。
	③ 生徒一人ひとりが充実感・達成感の得られる生徒会行事を企画・運営する。	生徒会 各学年	新入生歓迎会・スポーツ大会・学園祭等に、積極的な生徒の参加がさらに得られるようにしなければならない。	【満足度指標】 生徒会行事が充実したものとなり、達成感が得られる。	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	各行事後に調査したアンケート結果の総合は83.1%であった。
4 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。 広報活動の充実 開かれた学校づくりの取り組みの推進	① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	各コースの特性を活かした取り組みをさらに充実発展させ、近隣地域、小中学校等との交流活動の活性化や、各種の情報紙を含めた広報活動を充実させる必要がある。また、学校開放講座や図書館開放も積極的に行っている。	【努力指標】 近隣地域住民、小中学校等への広報活動の成果を上げる。	各種の交流活動や広報活動を通して、学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の保護者アンケートでは、88.9%であった。
	② ホームページの更新を定期的に行い、主な学校行事等も含め、本校の特色ある教育活動を発信する。	総務課 各コース	ホームページの情報更新が滞ることがある。各ページの構成や見やすさの改善を図り、より充実した情報を、保護者、児童生徒、地域住民等へ提供する必要がある。	【成果指標】 ホームページの情報等の更新を速やかに行い、また、本校の教育活動や取組の様子がよくわかるように内容を充実・改善していく。	ホームページを通して学校の教育活動に関する情報の発信が適切に行われていると答える保護者の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の保護者アンケートでは、79.3%であった。